

認知症サポーターの活動事例
企業・職域団体における認知症サポーターキャラバン取り組み事例
チームオレンジ取り組み事例
表彰団体一覧

部門	応募者
「認知症サポーターの活動事例」 【最優秀賞】	NPO 法人 やまぼうしネットワーク (岩手県滝沢市) ◆パートナーも店舗従業員も認知症サポーター 自立と自信を支える「スローショッピング」の挑戦 選考理由:スーパーマーケット・マイヤにおいて令和元年より毎週木曜日、認知症の当事者とパートナー(認知症サポーター)2人が組になり買い物を楽しみ、専用レジを利用できるスローショッピングを実施。「助けすぎない」支援を心得たパートナーと認知症サポーターである店舗スタッフの活躍により本人の主体性や役割を生かさされ、日常生活への意欲や自信、運動機能向上等の効果を挙げている。同時にイートインスペースを利用した「くつろぎサロン」を設け、当事者や家族、地域住民との交流の場や相談機能を果たす。 令和4年からは料理に不慣れな男性介護者に向けた「介護者のための料理教室」をマイヤの協力のもとに管理栄養士とパートナーにより開催するなど当事者の生活ニーズに応える取り組みを展開する。 生活の要となる買い物を介して、認知症サポーターを核とする住民が主体となり、地元企業、地域包括支援センター、医師会、家族の会等との連携のもとに発展し続ける活動は、真の自立支援を追求するものとして極めて高い評価に値する。
「認知症サポーターの活動事例」 【優秀賞】	米沢市 (山形県米沢市) ◆多様な年代、立場のサポーターが知恵が結集 カフェを起点に地域共生社会を目指す 選考理由:スターバックス、セブンイレブンや商工会議所、道の駅、医療機関等の企業や小学校、高校などを巻き込み、市内15か所で開催される認知症カフェでは、多様な世代、属性の認知症サポーターが企画や運営のアイデアを持ち寄る。これにより認知症の当事者やサポーター、行政職員等誰もが気軽に集い、顔の見える関係で交流や情報交換をできる場を創出している。 また健康づくりの環境整備に努めることを宣言する企業等を登録する「よねざわ健康長寿応援団」の宣言項目にも認知症サポーターとしての取り組みを明記し、人材養成と活動を推進する。 住民・企業の認知症サポーターが自らできることを考え、地域づくりに参加できる基盤は地域共生社会実現への布石となるものである。

「企業・職域団体における認知症
サポーターキャラバン取り組み事例」

【優秀賞】

中日本高速道路株式会社 名古屋支社
高山保全・サービスセンター
(岐阜県高山市)

◆高速道路から高齢者を見守り、地域の安全に貢献

選考理由: 高齢ドライバーによる事故や高速道路における逆走、自転車や徒歩での不法侵入等、認知症に起因する社会問題に正面から取り組むべく、平成 30 年の高齢者等見守りネットワーク協力事業所への登録を契機に高山市との連携体制構築を進めてきた。

職員が認知症サポーター養成講座を受講することで基礎知識や対応の仕方を学び、認知症が疑われる高齢者へ適切な支援を行い、必要に応じた関係機関への連絡を徹底することで未然に事故等を防ぎ地域住民の安全を守る結果となっている。

さらに市のプロジェクトの一環として事業所や料金所等前の花壇・プランターでマリーゴールドを育てる中で認知症への理解の啓発に寄与し、同時に日頃からの地域住民との信頼関係を育む。

業務特性が生かされており、交通に関わるあらゆる企業の模範となる優れた取り組みとして評価される。

「企業・職域団体における認知症
サポーターキャラバン取り組み事例」

【特別賞】

株式会社イトーヨーカ堂

◆サポーター養成を核とした取り組みを継続する
バリアフリー企業のフロントランナー

選考理由: 全従業員の約 7 割にのぼる約 1 万 9 千人が認知症サポーターとなっている。サポーター養成講座開催時には地域の認知症の当事者との対話の機会を設け、ともに草むしりなどをする活動を継続する。

自治体との協定を多数締結し、地域コミュニティ拠点として店舗を提供、地域包括支援センターや民生児童委員、地域住民と連携を図りながら見守りや介護予防等に貢献している。

令和 6 年度からは横浜市との協力のもと、高齢者がボランティアとともに買い物を楽しむスローショッピングを開始している。また移動販売車(とくし丸)を 64 店舗、81 台運営し、地方、首都圏のフードデザート(食の砂漠)解消を図る。毎週訪問する移動販売車が近隣住民の交流の場となり、自治会、地域住民との連携のもと健康イベントなども開催し、見守りと地域交流に貢献する役割を果たす。

認知症に関連する従業員の接客上の不安、地域で暮らす認知症の人が日常生活で覚える不安の双方を解消するアプローチによる各種取り組みは他企業の範となるものといえる。

「企業・職域団体における認知症
サポーターキャラバン取り組み事例」

【特別賞】

株式会社福井銀行

◆顔が見える関係づくりを構築し、
認知症の早期対応に取り組む金融機関

選考理由: 2007 年から役職員を対象にサポーター養成を進める中で、協定の締結をはじめ自治体と連携を図り、見守り活動や SOS ネットワークへの協力、各種学習会、家族会の参加などに積極的に取り組む。令和 3 年には認知症医療疾患センターと協力し認知症の顧客への対応に関するガイドラインを作成、令和 6 年には警察と協定を結ぶ。

金融機関として地域の顧客の資産を守る業務と並行して、地域住民の生活全般に視野を広げた各種の取り組みを認知症の早期対応などに役立てることを目指しており、遠方の家族との情報共有や詐欺被害の未然防止につながるなどの成果を挙げている。

社内では職員同士が介護休暇取得に理解を示す気風も形成されており、着実に地域社会との連携を深める事業を積み重ねる姿勢が評価され、今後のさらなる発展にも期待がかかる。

「チームオレンジ取り組み事例」

【優秀賞】

team おはぎ Cafe
(東京都八王子市)

◆小さな課題解決の積み重ねから誕生した 当事者が活躍するチームオレンジ

選考理由: 令和4年、認知症である顧客が万引きと間違われた際にスーパーマーケットから認知症サポーター養成講座受講依頼があったことを契機に、認知症カフェが立ち上がった。その後学生を含む住民サポーター、企業サポーター、認知症の当事者やその家族、介護・医療関係者等多様なメンバーが参加するチームオレンジへと発展している。

おはぎやコーヒーを味わいながら情報交換やメンバーの希望に即した学習機会を設けるほか、外出支援や地元の小学生との交流を行う。

自動精算機が認知症の人の買い物を難しくしているとの発見から、他のメンバーも使い方がよくわからないとの意見により、“自動精算機学習会”やポイントカードの使い方をスーパーマーケット従業員がわかりやすく説明する実践を盛り込んだ内容のステップアップ講座を開催する。当事者を含むメンバーがとともに学び、生活の困りごと解決に楽しみながら取り組み、各自の力を発揮する活動は、自立支援に資するチームオレンジ本来の目的にかなっており高く評価される。